

# 天井埋込形 1 方向吹出 据付工事説明書

PJC012D314

201904



本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。  
電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。  
ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。  
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。  
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。  
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。  
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。  
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

## 安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【注意】**、**【注意】**に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【注意】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**【絶対に行わない】****【必ず指示に従い行う】**
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。  
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。  
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

## 警告

- 据付は、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。（JRA GL-13）  
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付けろ。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、室内ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。  
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。  
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- 室内ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。  
空気などが流入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。  
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具は R32 用または R410A 用を使用する。  
既存（R22）の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。  
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れない。  
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。  
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。



## ①据付の前に

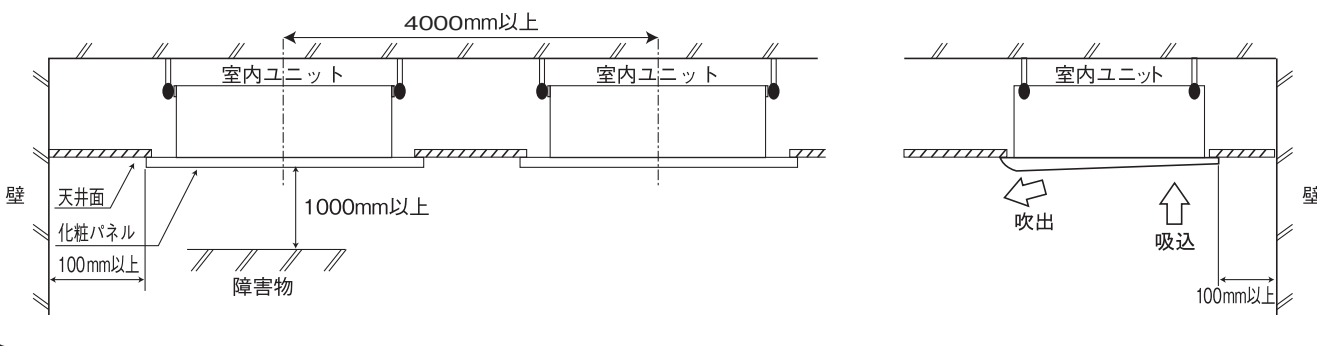
- 据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
  - 機種・電源仕様
  - 配管・配線・小物部品
  - 付属品

付属品							
本体吊り込み用		冷媒配管用		ドレン配管用			
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ
8 個	1 個	1 個	4 個	1 個	1 個	1 個	1 個
室内ユニット 吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー 固定用	ドレンソケット 断熱用	ドレンソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用

## ②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
  - ・冷風または温風が十分に行きわたる所。  
据付高さが 3m を超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
  - ・人感センサを取付ける場合、据付高さは 4m 以内とし、センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
  - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
  - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
  - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
  - ・侵入外気の影響のない所。
  - ・直射日光の当たらない所。
  - ・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80% 以下の所。
- 本室内ユニットは JIS 露付条件（室内：27℃/78% RH）にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雲囲気の状態 で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに 10～20mm の断熱材を取付けてください。
- ・テレビ、ラジオより 1m 以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
- ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
- ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
- ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ワイヤレス機種を 2 台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を 6m 以上離してください。
- ④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を 4m 以上離して設置してください。

## 室内ユニット据付スペース



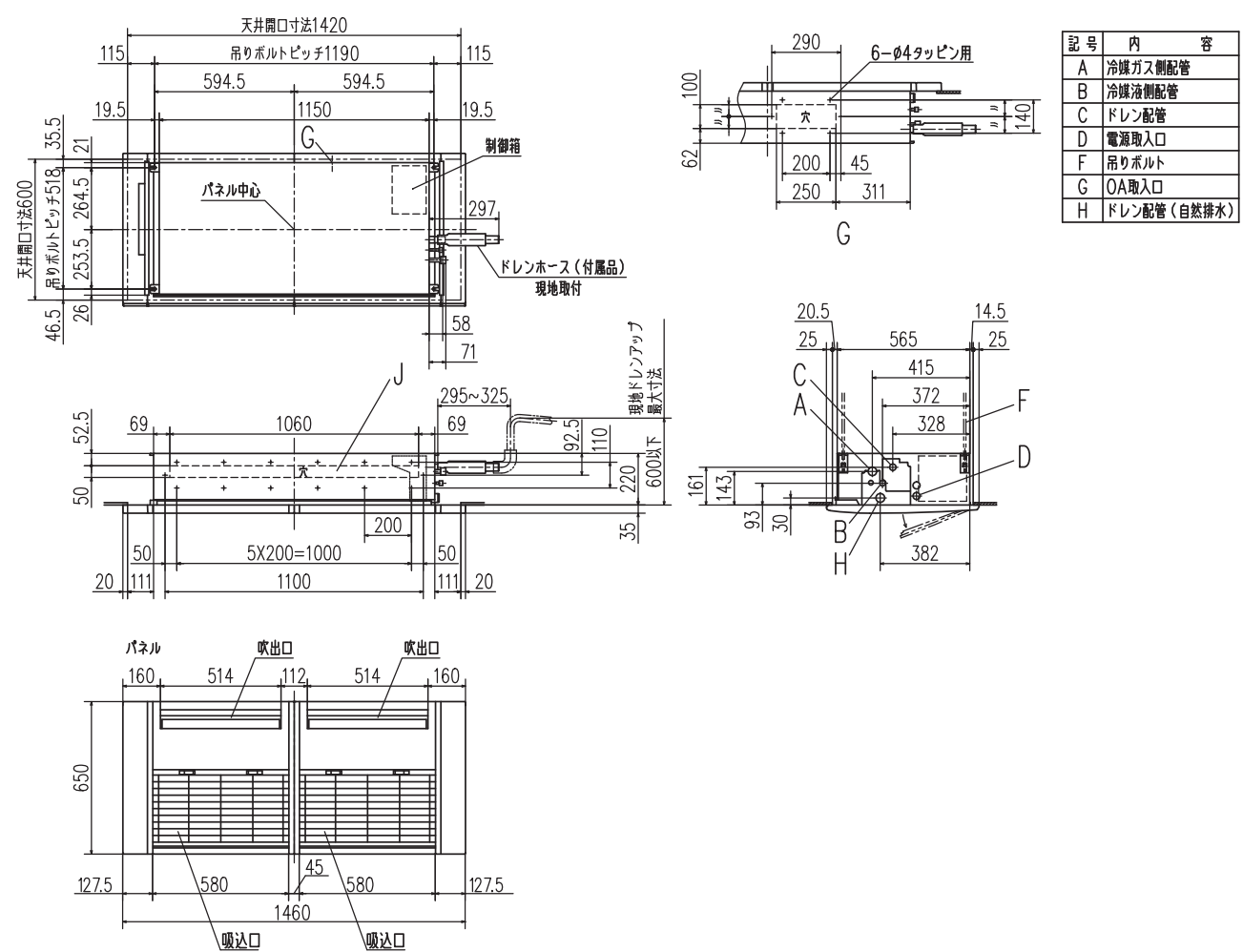
## 注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取付ける。  
漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B 種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。  
万一ガスが室内ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所での据付け、使用は行わない。  
熱交の腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。  
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。  
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。  
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。  
インバータ駆動・自家発電機・無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。  
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
  - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
  - ・硫黄系ガス、塩素系ガス、酸、アルカリ・アンモニアなど
  - ・力ーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
  - ・機器に影響する物質の発生する所
  - ・車の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
  - ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
  - ・高周波を発生する機械を使用する所
  - ・積雪の多い所
  - ・海浜地区等塩分の多い所
  - ・標高 1000m 以上の所性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内ユニットの据付けは避ける。（機種により異なる制限があるので、その指示に従うこと。）
  - ・吸込口、吹出口に風の障害物がある所
  - ・人感センサ搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化を招く恐れがあります。
  - ・ワイヤレス機の場合、受光部に直接太陽光や強い光が当たる所
  - ・長時間振動が加わる状態
  - ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
  - ・静電気や強い電磁波のある場所
  - ・ドレンの排水がとれない所
  - ・長時間高温、多湿になる場所性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
- エアコンの下部には、濡れて困るものは置かない。  
湿度が 80% 以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。  
傷んだ状態で設置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの進入を防止する。  
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくと、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。  
不確実な場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。  
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
- 冷媒配管施工終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。  
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となる場合があります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100 以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。  
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。  
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。  
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。  
また、お客様に周辺をきれいに保つことを願っています。
- 製品の運搬は十分注意して行う。  
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないでください。  
素手でフィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。  
梱包材にクズなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- フィルタをはずしたまま運転しない。  
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。  
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。  
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- エアコンを水洗いしない。  
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

## ③据付前の準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
  - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm 以上又は天井ふところ高さ 700mm 以上の場合に耐震プレースを設置してください。
  - 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合  
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm 以上の場合に耐震プレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を 4 組現地に手配してください。

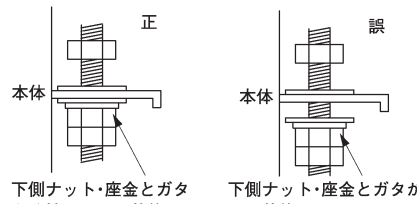
## 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



## ④室内ユニットの据付

### 作業手順

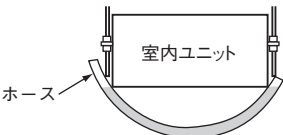
1. 天井に 1420×600 の穴をあけてください。
  2. 吊りボルト位置（1190×518）を決めてください。
  3. 吊りボルトは、4 本使用してください。
  4. 吊りボルト長さは、天井面より 165mm 程度上としてください。吊りボルトの下側ナット 4 箇所は天井面から 217mm 程度に仮止めし、上側ナット 4 箇所は室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニット本体を吊り込んでください。
  5. 室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。（吹出口部分は、天井裏に入ります。）天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、天井下面に対し、エアコン本体下面が上方に 5mm 以下です。
- 注意** エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。
- 高さ調整は、上側ナット 4 箇所を緩めた状態で、下側ナット 4 箇所を調整してください。室内ユニット吊り金具 4 箇所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。





④室内ユニット据付のつづき

6. 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れてものを使用して確認してください。(室内ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
7. 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けて室内ユニットを固定してください。



室内ユニット据付時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、室内ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）をご使用ください。他のフレアナット（1種）を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの（JIS B 8607 2種適合品）を使用してください。

配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		R32 用 R410A 用	リジッド (クラッチ式) R32 用 R410A 用		
6.35	0.8	0 ~ 0.5	従来ツール	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32またはR410A用のフレア加工をしてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸銅金線目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
  - R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
  - 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
  - 工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。  
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。  
(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。  
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3〜4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
  - 高温度雰囲気で使用の場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

注意  
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摩擦係力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。  
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内へのみとすること。

5

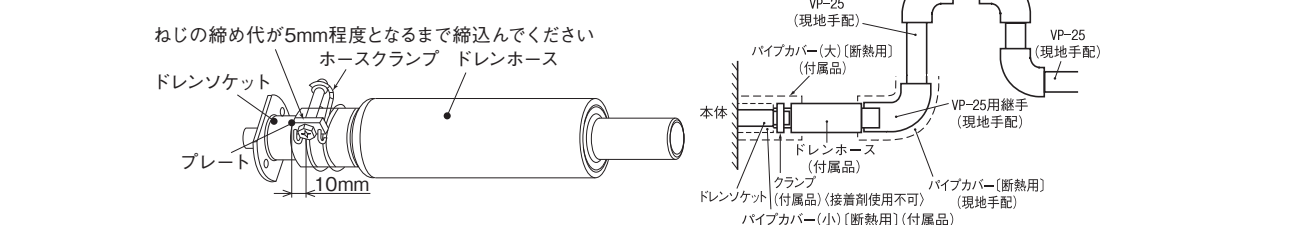
⑥ドレン配管のつづき

ドレン配管時の注意事項

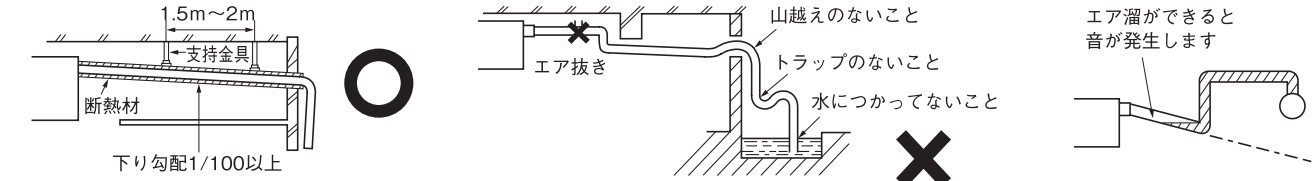
- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
  - ドレン配管は、イオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
  - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
  - 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
  - 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
  - ドレン配管は、下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

作業手順

- 付属のドレンホース（軟質塩ビ端）はソケット段差部まで確実に挿入してください。ホースクランプは、ホース先端部から10mm程度ところに取付け、ねじの締め代が5mm程度となるまで締込んでください。
  - 接着剤使用不可



- ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25（現地手配）を接着・接続してください。  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
  - 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
  - 乾燥後、フレキシ部に力が加わった場合、フレキシ部が破損することがあります。
  - ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
  - ドレン配管を接続する場合に室内ユニット側の配管に力加えないように注意して行い、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
  - エア抜きは絶対に設けないでください。



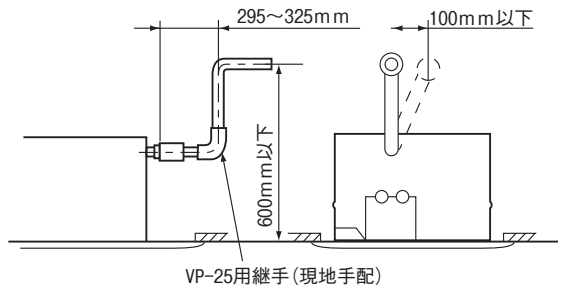
- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合配管はVP-30以上を使用してください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
- 結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。  
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のバイプカバー（小）をドレンソケット部に装着した後、付属のバイプカバー（大）にてバイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より600mmまで高くすることが出来ます。天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

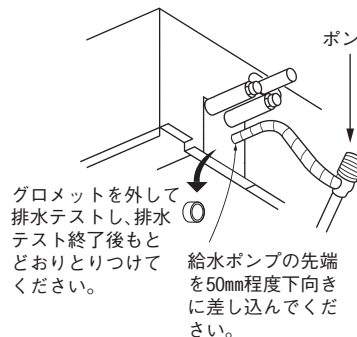


6

⑥ドレン配管のつづき

作業手順

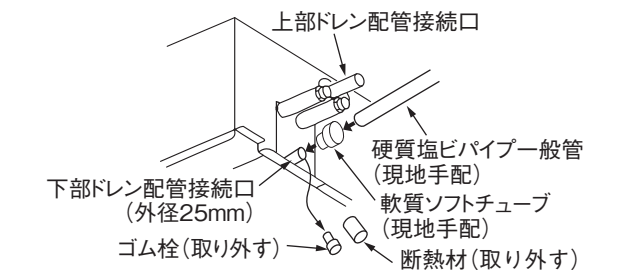
- 配管貫通部カバーのクロメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000cc注入してください。
- ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。  
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部（透明）より確認できます。
- 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。  
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
- 排水テスト後は、必ずクロメットを元通りはめこんでください。
- 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



- 電気配線工事が完了していない場合  
室内ユニット基板上のSW7-1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNRを抜いた後、電源ON（端子台①、②へAC200V）すると、ドレンポンプのみ連続運転します。  
ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態（OFF）に戻し、かつ、基板上のコネクタCNRを差し込んでください。

下部ドレン配管工事要領

ドレン配管に下り勾配（1/500〜1/100）が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です。  
(ドレンモータ用のコネクタの取り外し)  
下図に示すようにコントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCNRを取り外してください。  
注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

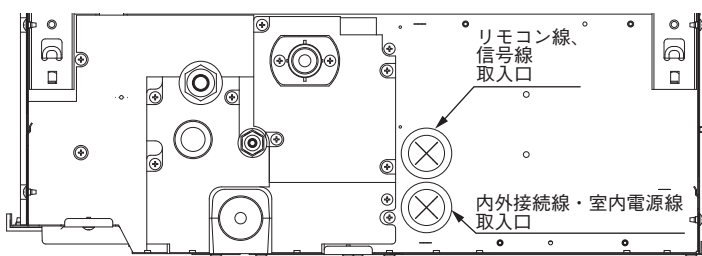


ドレンポンプ運転方法

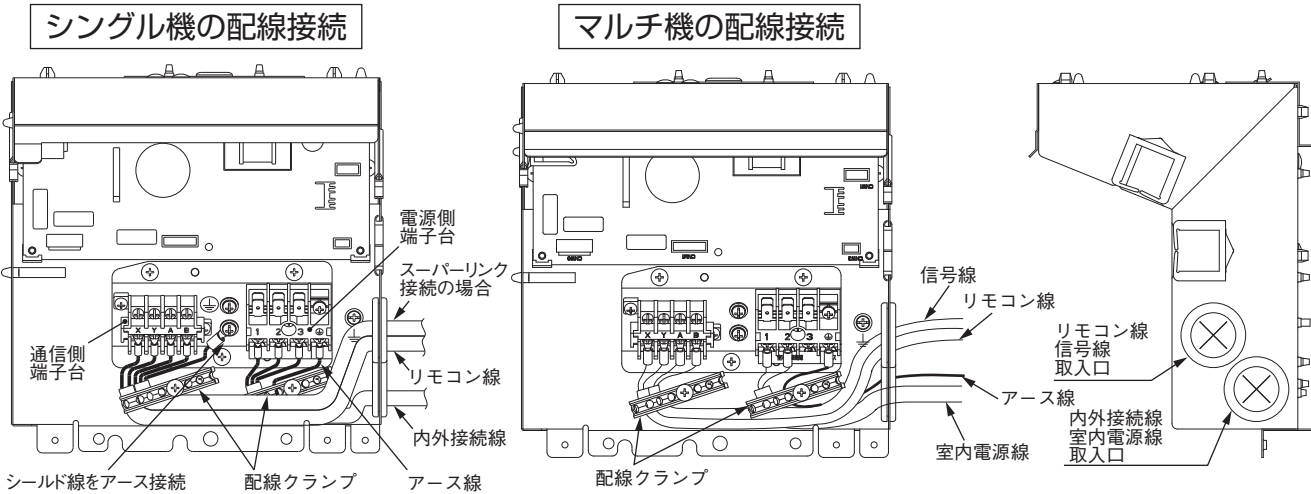
- 電気配線工事が完了している場合  
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。  
運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



- 電装箱の蓋（ねじ2本）を取り外してください。
- 各配線を室内ユニットの内にに入れてください。
- 配線を端子台に確実に接続してください。
- 各配線を配線クランプで固定してください。
- 電装箱の蓋を元通りねじ2本で取りつけてください。

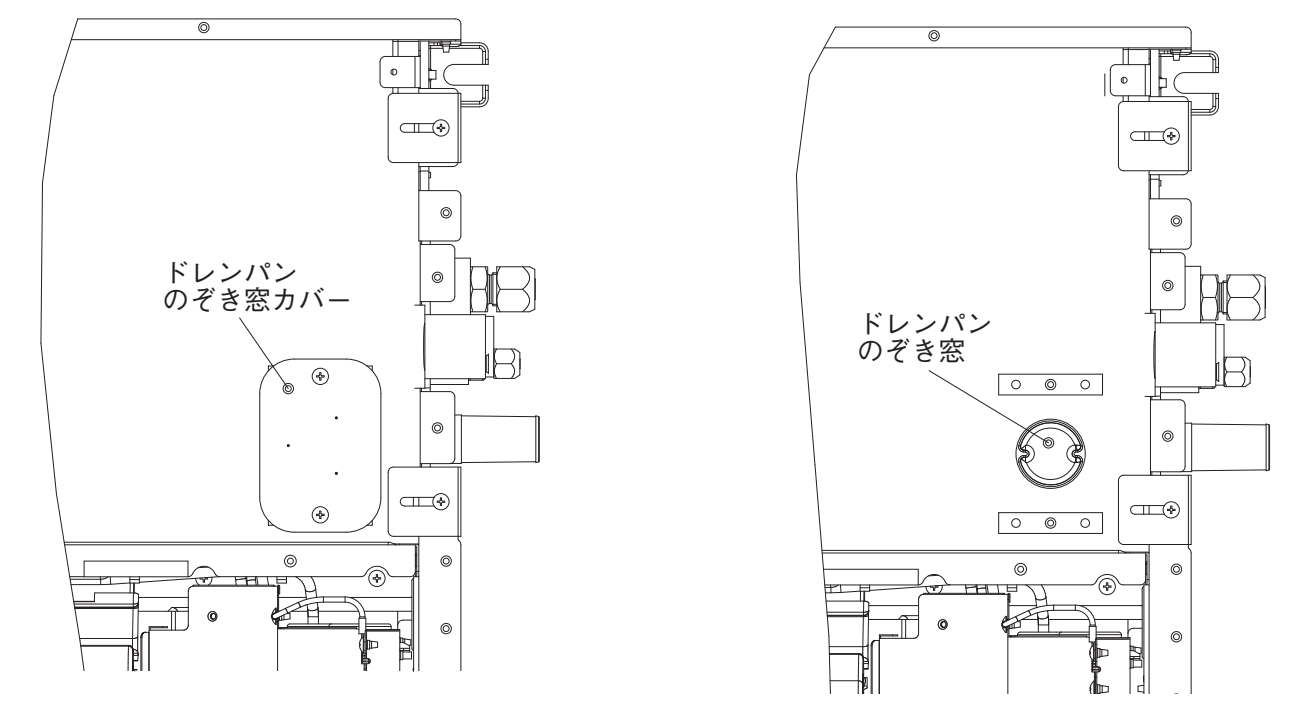


7

⑪ドレンパン汚れ確認（メンテナンス）

ドレンパン汚れ確認方法

- ドレンパンを取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパン汚れが確認できます。
- 1. パネルを取外してください。
- 2. ドレンパンののぞき窓カバーを取外してください。
- 3. のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。  
汚れが多い場合は、ドレンパンを取外しドレンパンを清掃してください。
- 4. 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合結露・水漏れの原因となります。



PJC012D314

8



標準パネル据付説明書

PJC012D300  
表面(Front face)

この面は、標準パネルの据付説明書です。下がり天井パネルの据付説明書は、裏面をご覧ください。  
ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【△警告】**、**【△注意】**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【△警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【△注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**【⊘ 絶対に行わない】** **【❗ 必ず指示に従い行う】**
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。  
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。



△警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。  
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。  
据付けに不備があると、ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。  
当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。  
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

① 据付のまえに

- ・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

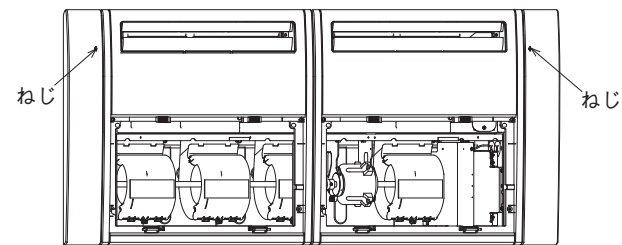
付属品

ボルト		右パネル4本、左パネル4本	パネル取付用
ねじ (M4 L=8mm)		右パネル2本、左パネル2本	チェーン取付用

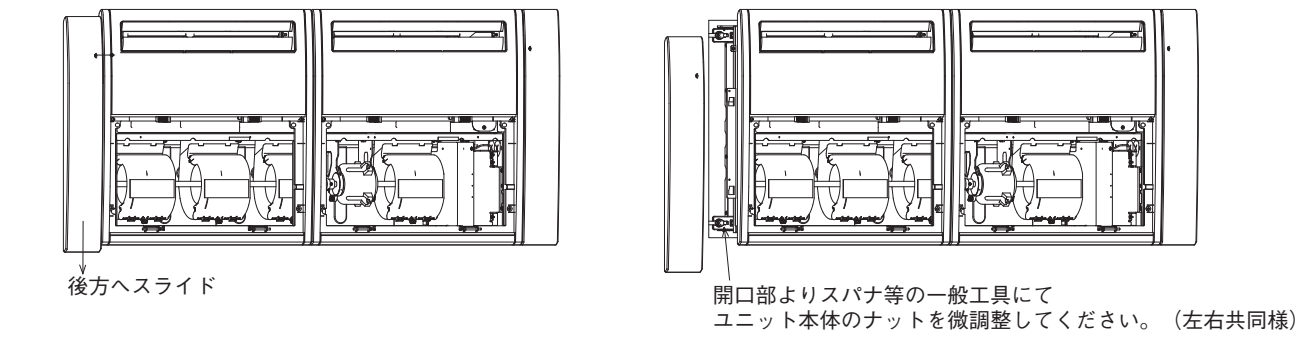
④ ユニット高さ調整方法

室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であれば化粧パネルを取り付けたまま室内ユニット本体の据付高さを微調整できます。

1. サイドパネルのねじを取り外してください。



2. サイドパネルを後方にスライドさせ、取り外してください。（左右共同様）



3. 据付高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。

ご注意

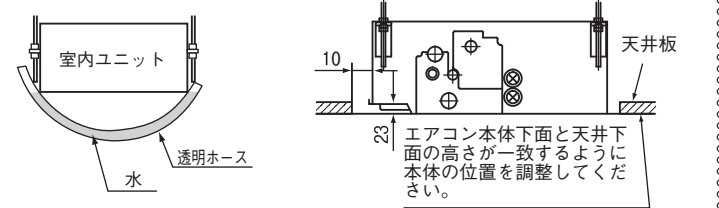
ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。  
パネルが変形し破損の恐れがあります。

② 本体の取付レベルの確認

- ・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
- ・室内ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。  
室内ユニット下面と天井下面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。  
(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
- ・天井下面と室内ユニット下面との高さの差は5mm以下としてください。

ご注意

室内ユニット本体が天井下面より下方にならないように設置してください。

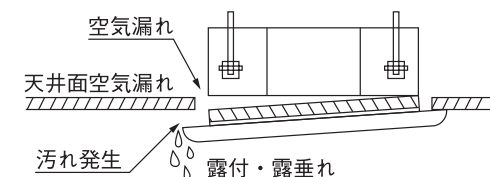


③ パネル取付

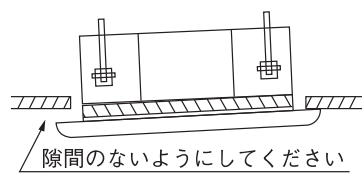
1. 左パネル付属のボルト4本のうち、2本を室内ユニットの中央吹出し側とその対角に5mm弱ねじこみます。（**【A】****【B】**●印）
2. 吸込みグリルを開け左パネルを2本のボルトにひっかけ、仮止めしてください。  
仮止めは、先に**【A】**●印のボルトにパネルをひっかけ、回転させながら**【B】**●印をひっかけます。
3. 右パネル付属のボルト4本のうち、1本を室内ユニットの配管側に5mm弱ねじこみます。（**【C】**●印）
4. **【C】**●印のボルトにパネルをひっかけ、その対角（**【D】**●印）を仮締めします。
5. 右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、仮締めしたボルト及び残りのボルト2本をしめつけてください。

ご注意

- ・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。

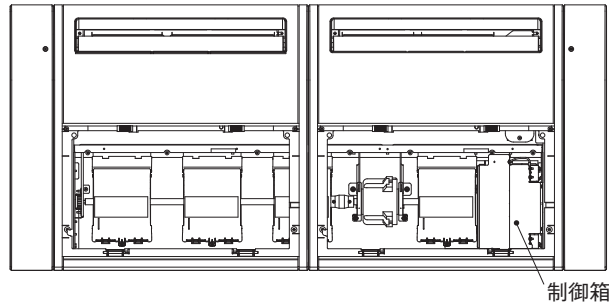


- ・吊りボルトを締め込んでも天井面と化粧パネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。

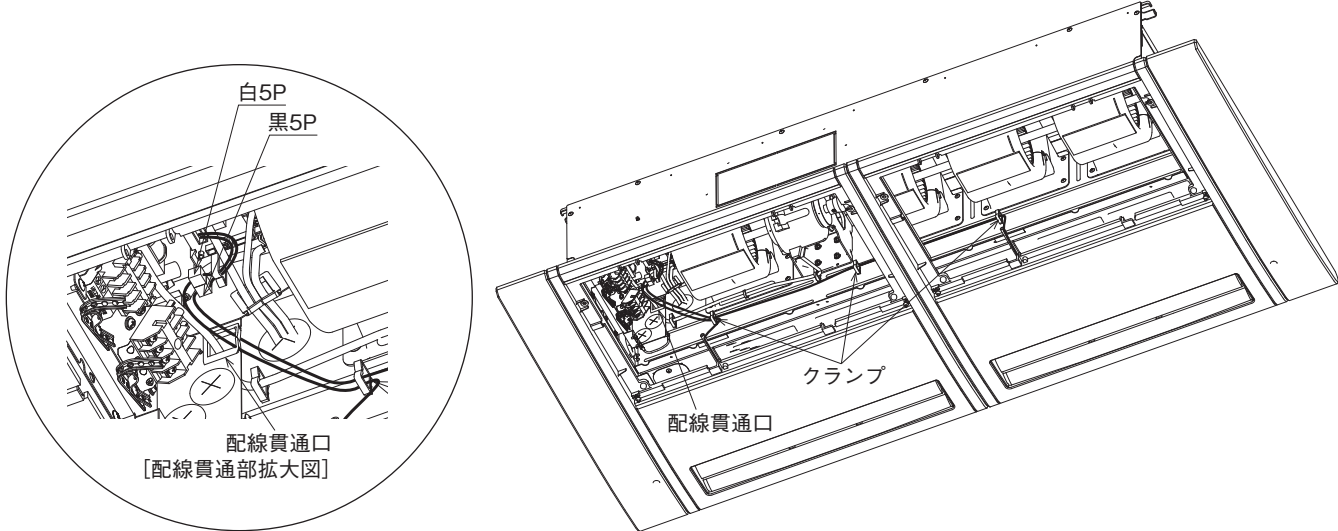


⑤ 電気配線

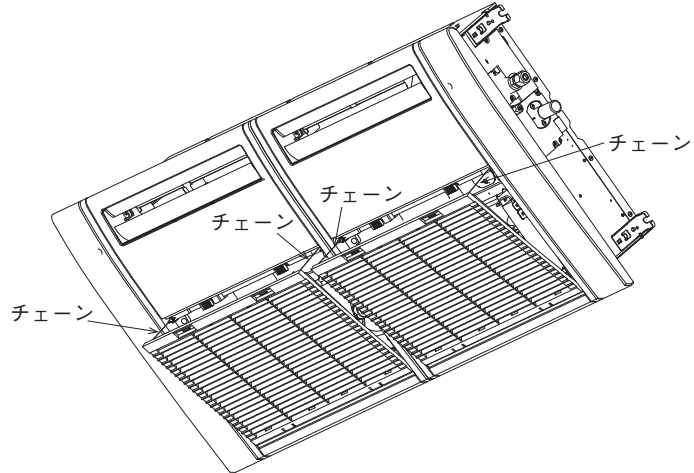
1. ねじ（2本）を外して、ユニット本体の制御箱の蓋を取り外してください。



2. ルーバモータ配線を室内ユニットのクランプに通してください。



3. 左パネルのルーバモータのコネクタ（黒5P）と右パネルのルーバモータコネクタ（白5P）を、それぞれ接続してください。  
室内ユニット側のコネクタは、制御箱の中にあります。  
コネクタは、色を合わせて接続してください。
4. コネクタ接続後、制御箱の配線の貫通口に、パネル側の配線を通してください。  
コネクタは、制御箱内に入れてください。
5. 制御箱の蓋を閉めて、ねじ（2本）を締め付けてください。
6. 吸込みグリルについているチェーンを、パネル側にねじ（2本）で取り付けてください。  
チェーンを取り付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。



7. 吸込みグリルを閉めて完了です。



下がり天井用パネル据付説明書

裏面(Back face)

この面は、下がり天井パネルの据付説明書です。標準パネルの据付説明書は、表面をご覧ください。  
ユニット本体の据付説明書及び、オプションの吹出しダクト、吹出しグリルの据付説明書と共にお読みください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【△警告】**、**【△注意】**、に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【△警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【△注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。**【○】** 絶対に行わない **【!】** 必ず指示に従い行う
- 据付工事後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方の方法など）をお客様に説明してください。  
この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

△警告

- |  |   |
|--|---|
| ●据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。<br>ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるケガの原因になります。                          | ! |
| ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。<br>据付けに不備があると・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。                                   | ! |
| ●設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。<br>当社指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電などの原因になります。                                       | ! |
| ●電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。<br>電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。 | ! |
| ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。<br>接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。                    | ! |
| ●室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。<br>カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。              | ! |
| ●オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。<br>ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。                      | ! |
| ●改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。<br>修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。  | ! |
| ●室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。<br>点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。          | ! |
| ●パネルやガードを外した状態で運転しない。<br>機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。                               | ! |
| ●元電源を切った後に電気工事を行う。<br>感電、故障や動作不良の原因になります。  | ! |

① 据付のまえに

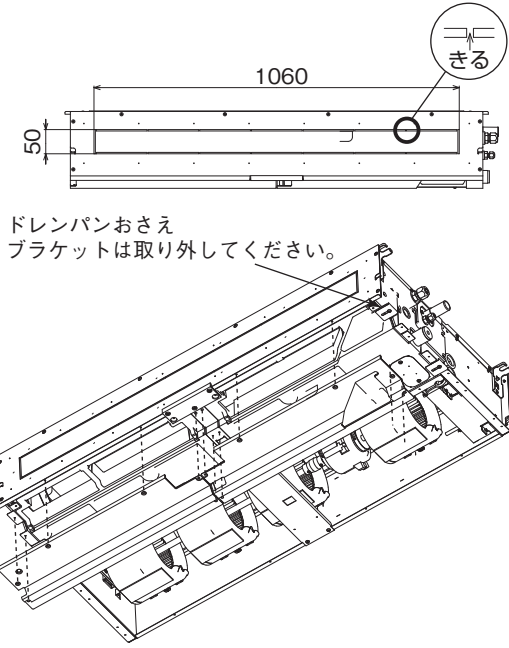
- ・据付はこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・右図の付属品を確認してください。

付属品

ボルト		右パネル4本、左パネル4本	パネル取付用
ねじ (M4 L=8mm)		右パネル2本、左パネル2本	チェーン取付用
ボトムプレート (左)		1 個	
ボトムプレート (右)		1 個	
ねじ (M4 L=8mm)		6 本	ボトムプレート取付用

② 室内ユニットの据付準備

1. 室内ユニットの前面外側のインシュレーションのスリットに合わせて、ナイフなどで切り込みを入れます。
2. ハーフブランキング部をニッパー等で切断し、切り取ります。
3. ドレンパンを取り外してください。
4. 室内ユニット内側のインシュレーションを切り取り、穴を開けます。
5. 室内ユニット内にごみが残っていないか確認し、ドレンパンをもとにもどしてください。
6. ボトムプレート（右）(左) を付属のねじで取り付けます。  
その際、吹出口横にあるドレンパン抑えブラケットは取り外してください。



③ 吹出しダクト・吹出しグリルの取り付け

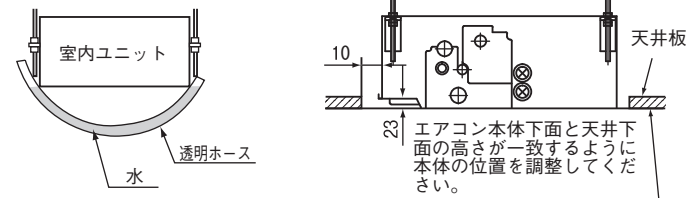
1. 吹出しダクト・吹出しグリル（オプション）に付属の据付説明書に従って、取付を行ってください。

④ 本体の取付レベルの確認

- ・室内ユニット本体の据付説明書と共にお読みください。
- ・室内ユニット本体と天井材との取付レベルを確認してください。  
室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。  
(吹出し口部分は天井裏に入ります。)
- ・天井下面と室内ユニット下面との高さの差は、5mm以下としてください。

ご注意

室内ユニット本体が天井下面より下方にならないように設置してください。

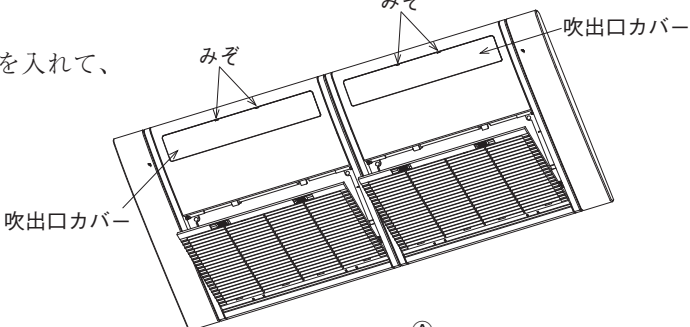


1

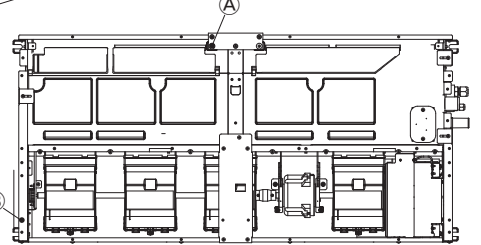
2

⑤ パネル取付

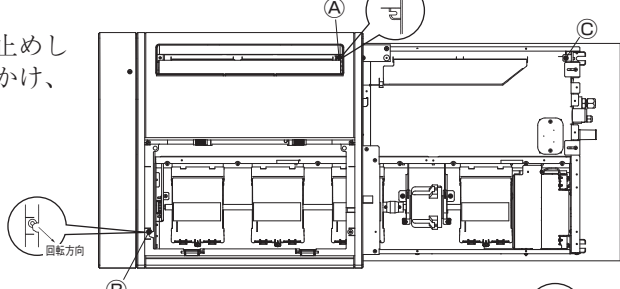
1. パネル吹出し口のカバーの溝に、マイナスドライバー等を入れて、カバーをパネルから取り外してください。



2. 左パネル付属のボルト4本のうち、2本を室内ユニットの中央吹出し側とその対角に5mm弱ねじこみます。（**【A】**●印）



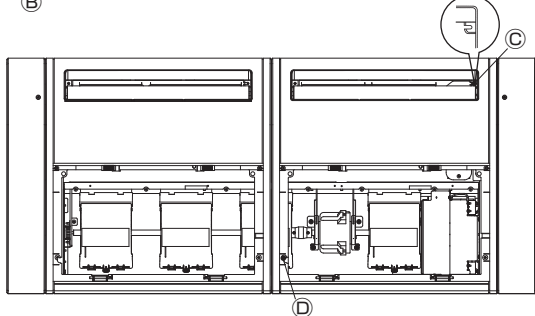
3. 吸込みグリルを開け左パネルを2本のボルトにひっかけ、仮止めしてください。仮止めは、先に**【A】**●印のボルトにパネルをひっかけ、回転させながら**【B】**●印をひっかけます。



4. 右パネル付属のボルト4本のうち、1本を室内ユニットの配管側に5mm弱ねじこみます。（**【C】**●印）

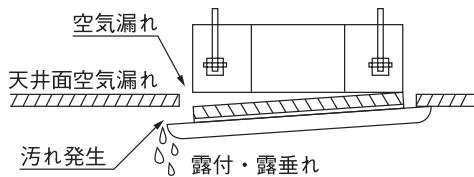
5. **【C】**●印のボルトにパネルをひっかけ、その対角（**【D】**●印）を仮締めします。

6. 右パネルと左パネルの隙間を調整しながら、仮締めしたボルト及び残りのボルト2本をしめつけてください。

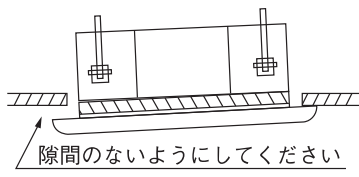


ご注意

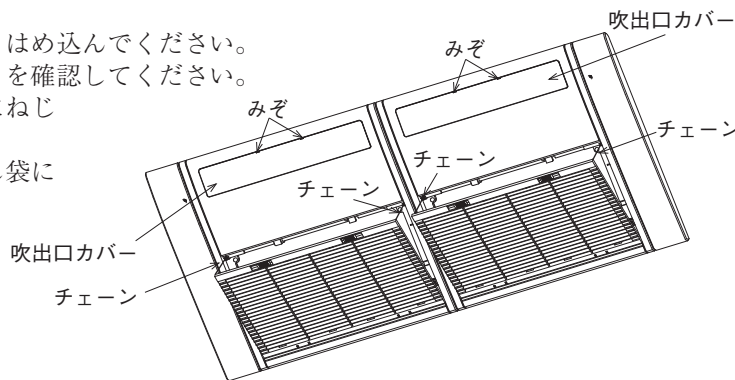
・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。



・吊りボルトを締め込んでも天井面と化粧パネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニット本体の高さを再調整してください。



7. 吸込みグリルを閉めてください。
8. 吹出し口カバーをパネル下側から押し込み、元通りはめ込んでください。  
吹出し口カバーは確実にはめこみ、落下しないことを確認してください。
9. 吸込みグリルについているチェーンを、パネル側にねじ（2本）で取り付けてください。  
チェーンを取り付けるためのねじは、ボルトと同じ袋に入っています。

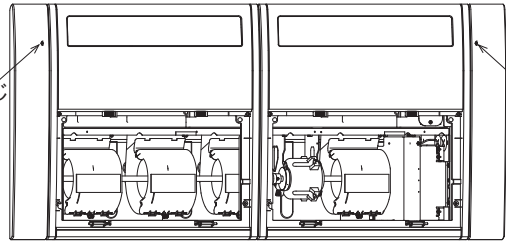


10. 吸込みグリルを閉めて完了です。

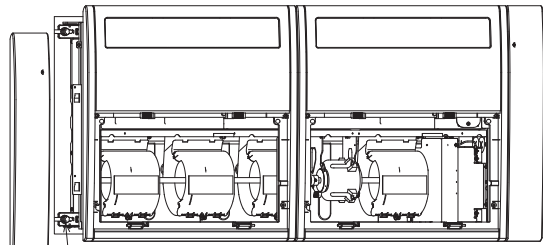
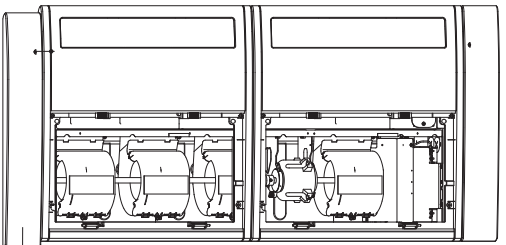
⑥ ユニット高さ調整方法

室内ユニット本体の水平度、ドレン配管などに影響がでない程度であれば化粧パネルを取り付けたまま室内ユニット本体の据付高さを微調整できます。

1. サイドパネルのねじを取り外してください。



2. サイドパネルを後方にスライドさせ、取り外してください。（左右共同様）



3. 据付高さ調整後は、サイドパネルを元通りに戻してください。  
開口部よりスパナ等の一般工具にてユニット本体のナットを微調整してください。（左右共同様）

ご注意

ユニット本体と天井材との高さは、パネル取付の際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。  
パネルが変形し破損の恐れがあります。

3

4



電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
- 安全のため必ずお守りください。
- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
- △警告「△注意」の意味

△警告

守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。

△注意

守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。

- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。

⓪ 絶対に行わない

Ⓜ 必ず指示に従い行う
- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。  
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。  
漏電遮断器が取付けられないとき感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流量に合った規格品の配線を使用する。  
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。  
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。  
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切り換え

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切り換え可能です。（□は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW5-1	親/子切換(ブルー/子機設定)
SW5-2	機種容量
SW6-1~4	ON 運転チェックドレンポンプ試運転
SW7-1	OFF 通常運転
SW7-2 (注1)	ON 旧SL通信仕様固定 OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW7-3	室内アドレス(100位)

※注1：集中制御機器接続時の場合  
通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。  
旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ、ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前  
新 SL：ビル空調 3LX シリーズ、ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降  
SW7-2 が OFF (工場出荷設定) の場合は、通信仕様 (新 SL / 旧 SL) を自動判別します。  
旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW7-2 を ON にしてください。  
各通信仕様の特徴、制限は室内ユニット付属の説明書をご覧ください。

機種容量の設定

- 本室内ユニットは、マルチV接続の場合のみ、それぞれの室内ユニット毎に機種容量設定が必要です。  
機種容量設定は室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で設定してください。

シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合

i

同機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

①室外ユニットから電源投入すると自動で機種容量を認識しますので、スイッチ設定は不要です。

②エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。詳細は「③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法」を参照してください。

マルチ V 接続の場合

i

異機種 / 異容量、同機種 / 異容量の室内ユニットを接続する場合

①電源投入前に室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で機種容量を設定してください。形式により設定できる機種容量は下表の通りです。これ以外に設定しないでください。正常に運転できません。また破損の原因となります。

ii

異機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

①自動で機種容量を認識するため、設定不要です。

形式	FDT	FDR	ZP565S	ZP635S	ZP715S	ZP805S	ZP1125S	ZP1605S
容量	P50	P56	P63	P71	P80	P112	P140	
SW6-1	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	
SW6-2	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	
SW6-3	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	
SW6-4	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	

SW6

工場出荷時設定

注1: 工場出荷時の設定は自動認識(全て OFF)になっています。

注2: シングル・ツイン・トリプル・Wツイン接続の場合でもスイッチを自動認識以外の状態にすると、設定した機種容量として認識してしまいます。

- ②エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。詳細は「③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法」を参照してください。

①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
- ②室外ユニットへ接続してください。
- ③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載しております。注:電気ヒータの組込みは不可です。別置ヒータを連動させる場合は、ヒータ専用電源を設けること。
- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。
- 室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。
- 室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
- 天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接触れないように施工してください。
- リモコン用端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
- ①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、リモコン側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。
- ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NVCシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。
- ④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。
- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

丸型圧着端子

電線

シングル接続の結線

ツイン・トリプル・Wツイン接続の結線

①室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。

※ 例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。

三  
相  
機

単  
相  
機

②リモコンの取付け（別売部品）

- 取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。
- 次の位置へ取付けないでください。
- 直射日光の当たる所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 発熱器具に近い所
- 取付け面が発熱・結露する所
- 取付け面の凹凸がある所

リモコン取付け・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm<sup>2</sup>×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は 1mm 以上のものを使用してください。（現地手配）

③リモコン線の総延長は600mです。  
延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

100～200m以内・・・0.5mm<sup>2</sup>×2心

300m以内・・・0.75mm<sup>2</sup>×2心

400m以内・・・1.25mm<sup>2</sup>×2心

600m以内・・・2.0mm<sup>2</sup>×2心

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離してください。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

1リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。

同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内ユニットの基板上のロータリスイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン＋ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法

- 電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。（アドレス確認はシングル接続を除く）

eco タッチリモコン (RC-DX シリーズ) の場合

1メニューをタッチする。

メニュー画面に切り換わります。

2サービス設定をタッチする。

サービス設定画面に切り換わります。

3サービス・メンテナンスをタッチする。

パスワード入力画面に切り換わります。

4サービスパスワードを入力する。

5セットをタッチする。

サービス・メンテナンスの画面に切り換わります。

6次ページをタッチする。

7室内機容量表示をタッチする。

8接続されている室内ユニットのアドレスNo. (室内機No.) と機種容量が表示されます。

③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法（つづき）

標準リモコン (RC-D シリーズ) の場合

機種容量は確認できません。

1 エアコンNoボタンを押す。

室内ユニットアドレスが表示されます。

2 ▲▼ボタンを押す。

接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作 (RC-DX シリーズ)	標準リモコンから操作 (RC-D シリーズ)
1	リモコン系統内の接続室内ユニットの確認方法	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【サービス・メンテナンス】⇒【サービスパスワード】⇒【エアコンNo.表示】⇒【個別送風運転】	①エアコンNo.を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③【運転切換】を押してください。送風運転します。
2	親子リモコン設定	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【リモコン設定】⇒【サービスパスワード】⇒【リモコン親子設定】	子リモコン切換スイッチ (SW1) を「子」に設定してください。
3	運転データの確認方法	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【サービス・メンテナンス】⇒【サービスパスワード】⇒【運転データ表示】	【点検】⇒運転データ表示▼⇒【セット】⇒データ確認中⇒室内機運転⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択⇒【セット】⇒データ確認中⇒▲▼データ選択
4	点検表示の確認方法	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【サービス・メンテナンス】⇒【サービスパスワード】⇒【点検表示】	【点検】⇒運転データ表示▼⇒【▼】⇒エラーデータ表示⇒【セット】⇒データ確認中⇒データ表示
5	リモコンからの冷房試運転方法	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【据付設定】⇒【サービスパスワード】⇒【試運転】⇒【冷房試運転】⇒【開始】	①【運転 / 停止】を押し、運転させてください。 ②【運転切換】により、「冷房」を選択します。 ③【試運転】を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④【冷房試運転▼】の表示で、【セット】ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
6	リモコンからドレンポンプ試運転方法	【メニュー】⇒【サービス設定】⇒【据付設定】⇒【サービスパスワード】⇒【試運転】⇒【ドレンポンプ試運転】⇒【運転】	①【運転 / 停止】を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ②【▼】を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③【セット】を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

⑤室内基板CNTコネクタの機能

室内基板

注 (1) 2mより長くしないでください。

●XR1~4はDC12Vリレー（オムロン製LY2F相当品）

●XR5は、DC12、24Vまたは100Vリレー（オムロン製MY2F相当品）

●CNTコネクタ（現地側）メーカ、形式

コネクタ:モレックス製 5264-O6

端子:モレックス製 263T

別売品 (PCZ006A043) を準備しておりますのでご利用ください。

●遠方発停・監視キットを別売品にて準備しておりますのでご利用ください。

●CNTAコネクタは、FDT他に搭載仕様書で確認します（現地側）メーカ、形式

コネクタ:日本圧着端子JST製 XAP02V-1-E

端子:日本圧着端子JST製 SXA-01T-P0.6

別売品 (PCZ006A053) を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1~4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。

工場出荷時は下記のように設定されています。

出力

① 運転出力	⑥ ファン運転出力3
② 暖房出力	⑦ デフロスト、油戻し出力
③ コンブ ON 出力	⑧ 換気出力
④ 点検（異常）出力	⑨ ヒータ出力
⑤ 冷房出力	⑩ フローリング出力
⑥ ファン運転出力1	⑪ 室内過負荷異常出力
⑦ ファン運転出力2	

入力

① 運転 / 停止	⑥ 設定温度シフト
② 運転許可禁止	⑦ 強制サーモ OFF
③ 緊急停止	⑧ 一時停止
④ 冷房 / 暖房	⑨ 静音モード

工場出荷時の設定

CNT-2出力1 運転出力	CNT-5出力4 点検（異常）出力
CNT-3出力2 暖房出力	CNT-6入力1 運転 / 停止
CNT-4出力3 コンブ ON 出力	CNTA入力2 運転 / 停止

●設定の方法は技術資料をご覧ください。

裏面へつづく



⑥リモコンからの操作・設定

A：eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。  
B：eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。  
C：インターネットよりユーティリティソフトを配信中です。

○：eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。  
△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。  
※1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
1. リモコンネットワーク				
1 複数室内機制御		リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。		○
2 親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作				
1 メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2 運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3 設定温度		室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4 風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効／無効を設定します（FDK の場合）。※2	A	△
5 風量		風量を設定します。	A	○
6 タイマー設定		タイマー運転を設定します。	A	○
7 運転／停止 SW		運転を開始します。／停止します。	A	○
8 F1 スイッチ	※1	F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9 F2スイッチ	※1	F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10 言語切換	※3	リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語／日本語 ドイツ語／フランス語／スペイン語／イタリア語／オランダ語／トルコ語／ポルトガル語／ロシア語／ポーランド語／中国語	A	
3. 便利機能				
1 フリーフロー設定		各ルーパーの可動範囲（上限位置－下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置 - 右限位置も設定します。 ※2	A	△
2 エアフレックス（風よけ）設定	※1	・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中／停止中）を切換ええます。	A	
3 タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
	時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。	A	△
	タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4 おこのみ設定 管理者パスワード	※1	おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。	A	
5 ウィークリータイマー		1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
6 るす番運転		お部屋を留守にすると、お部屋は著しく高温／低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房／暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7 換気	管理者パスワード			
	換気機器組合せの場合	換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[リモコン設定]⇒[換気設定]の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転／停止ができます。	A	○

5

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
8 言語切換設定		リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語／日本語 ドイツ語／フランス語／スペイン語／イタリア語／オランダ語／トルコ語／ポルトガル語／ロシア語／ポーランド語／中国語 ※2	A	
9 室外静音設計	※3	室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	
10 見てみて		室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット－室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11 消費電力量表示		今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット－室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定				
1 切忘れ防止タイマー		運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分（10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、タイマーが作動します。	A	△
2 ピークカットタイマー		能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0.40 ～ 80%（20%単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3 設定温度自動復帰		設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード／冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ～ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4 人感センサー制御 人感センサー付パネル組合せの場合	※1	人感センサーを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効／無効を設定します。	A	
5. お手入れ				
1 フィルタサイン リセット		フィルタサインの解除 次回清掃日の設定	A A	
2 グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル 組合せの場合	ラクリーナパネル グリルの昇降操作をします。 [メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[グリル昇降操作]の設定が必要です。	A	○
	降下長設定	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 mの範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
	管理者パスワード		A	
	ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3 お掃除パネル設定 管理者パスワード	お掃除自動設定	自動清掃の有効／休止を設定します。	A	
	清掃時間帯設定	自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
	清掃間隔設定	自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
	ダスト回収設定	ダストの回収時期を設定します。	A	
	ブラシ清掃回数設定	ブラシの清掃回数を設定します。	A	
6. ユーザ設定				
1 初期設定	時刻設定	現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
	時刻表示設定	時刻表示のあり／なし、12 H／24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
	サマータイム補正	現在時刻に対し、＋1 時間の補正を行います。	A	
	コントラスト調整	液晶の濃度の調整を行います。	A	
	バックライト	バックライトの有効／無効、点灯時間を設定します。	A	
	ブザー音	タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
	運転ランプ輝度 ※1	運転ランプの輝度の調整を行います。	A	
	2 管理者設定 管理者パスワード	・操作の許可／禁止を設定します。 [運転／停止][設定温度切換][運転モード切換][風向切換] [風量切換][ハイパワー運転][省エネ運転][見てみて][タイマー設定] [消費電力量表示] ※1 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定][グリル降下長設定][ウィークリータイマー設定] [言語切換設定][ドラフト防止設定] ※1	A	△

6

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
2 管理者設定	室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
管理者パスワード	設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
	温度設定刻み切換	設定温度の刻み（0.5℃／1.0℃）を設定します。	A	
	設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り換えます。	A	
	リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり／なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり／なしを設定します。	A	△
	管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。 管理者パスワードのリセットを行います。	A B	
	スイッチ機能変更 ※1	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] ※3 [ハイパワー運転][省エネ運転][室外静音制御][るす番運転] [おこのみ設定運転 1][おこのみ設定運転 2][フィルタサインリセット] [グリル昇降][消費電力量表示]	A	
	7. サービス設定			
	1 据付設定	据付日登録	B	
サービスパスワード	サービス情報入力	リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転		
		冷房試	B	△
	ドレンポンプ試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。		
		ドレンポンプのみを運転します。	B	
	お掃除試運転	フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合	B	
	ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
	自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
	親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
	バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効／無効が設定できます。	B	
		人感センサー設定 ※1		
		人感センサー付パネルの組合せの場合	B	
	グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○
2 リモコン設定	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
サービスパスワード	吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
	リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
	リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。	B	△
	運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
	設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／°Fの選択が可能です。	B	
	ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
	外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
	上下ルーパー制御	上下ルーパーの [4 位置停止]／[フリー停止] の切換ができます。	B	○

7

⑥リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
2 リモコン設定	左右ルーパー制御 ※2	左右ルーパーの [固定位置停止]／[フリー停止] の切換ができます。	B	
サービスパスワード	換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
	停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
	設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
	風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	
	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
3 室内設定	フィルタサイン	フィルタサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
	外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
	外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
	外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
	外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
	暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
	吸込温度補正	吸込センサー検知温度を ±2℃の範囲で補正できます。	B	△
	冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
	暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
	フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
	フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
	ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
	冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
	暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
	暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
4 サービス・メンテナンス	送風サーモ運転	送風時のサーキュレータ運転を設定できます。	B	
	外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
	運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
	サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
	風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
	室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
	外部出力設定 ※1	外部出力 1 ～ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	
	エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
	次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
	運転データ表示	室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
	点検表示			
	異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。		
	異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。	B	△
	異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
	定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
サービスパスワード	室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
	特殊操作	[室内アドレス消去][CPU リセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。	B	△
	室内機容量表示 ※1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。	B	
8. 困ったときは・・・	お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	○
1 連絡先表示		登録した連絡先・TEL 番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2 サービスを依頼される前に Q & A		Q & Aが表示されます。	A	
9. 点検表示	点検表示確認	異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続	USB 接続	ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。